

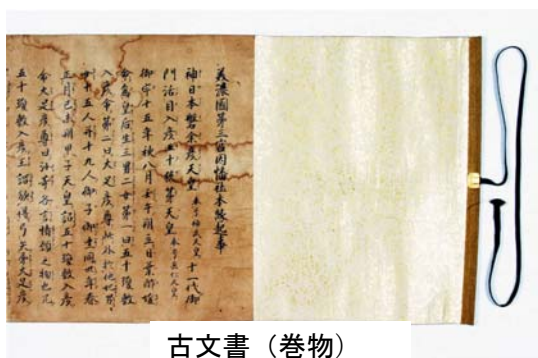
新しいデジタル・アーカイブの発進と利用上の課題

～デジタル・アーカイブの高山、世界遺産白川郷・五箇山の講習に参加して～

平成21年8月13日～15日 デジタル・アーカイブ講習会（高山・白川郷・五箇山）
にご参加下さいまして、ありがとうございます。

実際に、高山・白川郷・五箇山を見学していただいて、デジタル・アーカイブの作成にあたって撮影と著作権・プライバシー等の困難性も多々あることがご理解いただけたかと思えます。私も、皆様と一緒にさせていただき、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

その中で、皆さんがGPS等を使い、撮影と併せ、位置・映像情報を計測されている姿を見て、新しいデジタル時代がいよいよ始まるのだなあと感じました。



古文書（巻物）



GPS 測定



これまでのデジタル・アーカイブ化の第1ステップの単純なアナログをデジタル化から、第2ステップのメタデータのデジタル化が始まり、本格的なデジタル・アーカイブの導入期へ進みだしたなあと受けとめていました。

また、何ヶ所かの撮影している様子（状況：GPS のデータも測定）さらに、別の位置からカメラで撮影されている実践を見て、対象物のデジタル記録の新しい方法が始まりだしたと思えます。



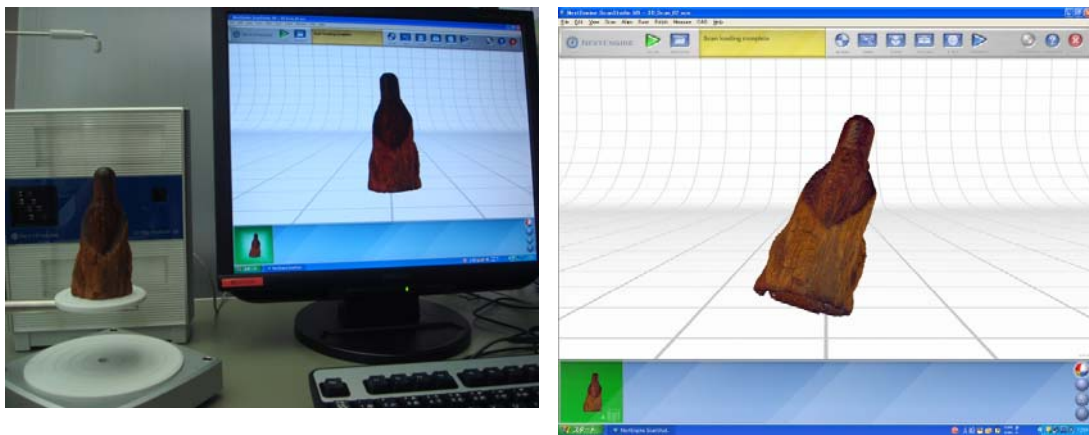
対象物を撮影



撮影の状況を撮影



全方位の撮影記録、これを処理して実用化



立体スキャナー

(立体スキャナーと同様に、多視点からの撮影記録、全方位の撮影記録など対象物の撮影記録がデジタル化でなければできない第3ステップへと発展しだしたと受けとめました。)

また、これらの各ステップで、新しい知的財産権やプライバシーの課題も出てくると、ますます、坂井先生が大変になるなあと心配しています。

私は、いろいろな意味で、今回のデジタル・アーキビストの高山・白川郷での研修会は、本格的なデジタル・アーカイブへ第一歩を踏み出し、進みだした、記念すべき3日間だと思いました。

情報化は、その時点では、それほど重要に受止められませんが、それが、後で考えてみると、大変な時点であったことに気がきます。

・・・今回は、正に、大変な時期（通過点）であったと思っています。

すなわち、デジタル・アーカイブは、

- ① 第1ステップとして、対象物のデジタル化(一次情報)撮影記録から始まりました。
- ② 第2ステップとして、メタデータ(二次情報)のデジタル測定・記録(GPS等)へ進み
- ③ 第3ステップとして、対象物、メタデータのデジタル処理機能を用いた撮影・記録と提示が始まりました。(また、立体スキャナー等のデジタル処理による記録もアーカイブ化されています。)

これらを、一通り、簡単ですが、実習・実践をしていただきました。

～映像（動・静止画）と測定値（位置・時刻等）の記録可能なビデオ～

私も、今回の研修を振り返って見ると、新しいデジタル・アーカイブの時代へ進みだしたのかなあとと思います。

また、皆様方が、それほど抵抗もなしに、受け入れて下さった様子から、それが特別な事項ではなく、ごく自然な方向性かなと受けとめました。

また、新しいデジタルビデオカメラには、GPSと静止画、動画の記録が可能となりました。これは、構成として、新しいデジタル情報化の時代へ本格的に進みだしたと受けとめてもよいでしょう。



GPS情報を記録した動画



GPS記録が可能なビデオカメラ

～新しい課題も多く出てきました。～

このような、第3ステップ（仮）まで進むと、これらのデータが、多様な情報を持つようになり、著作権、プライバシーなど様々の課題が出てきます。

それを、皆さんと今後、考えなければなりません。

たとえば、貴重な花の所在をGPSデータで提供すれば、ときには、盗難にあい、インターネットで提示した次の日には無くなっているようなことがあったら大変です。

360°撮影を、人がいないと思って、全方位の撮影をし、拡大したら、プライバシーにかかわる問題点が出てくることもあります。

また、今後、立体スキャナーでのデータをデジタル・アーカイブとして公開したら、他の人がレプリカを作製してしまうこともあるでしょう。

新しい問題が次々と出てきます。これをいかに解決するか大変な課題となってきました。一方、このようなデジタル化は、これまでの文化と融合し、新しい文化情報の構成へと進みだすだろうと思います。

この文化情報から、私の思いもしなかった新しい文化の展開の可能性もあります。何であるかは、若い人達の感性をもとにした活躍・仕事であろうと思います。新しい文化活動として、何が出てくるか、それを楽しみにしたいと思っています。

流通や教育等への利用は、待ってください！

～安易に使わないでよく検討して下さい～

第2ステップ（メタデータのGPS等デジタルデータの記録）

第3ステップ（デジタル処理機能を使った対象物、メタデータの撮影記録）

これらで、撮影、測定、記録したデータをデジタル・アーカイブ化したとき、皆さんは、無条件で利用してよいでしょうか。

学校・図書館・博物館で教材としての利用には、いろいろな課題があります。すぐに使ってよいか、ときには、問題点を持つデータもあります。そこで、

第一に、教材開発・教師の利用で守るべきガイドを作り、それに対応した使い方をする。

第二に、教師としては、内容的な調査、吟味を十分に利用する。

（ときには、薬と同様に、教材に使い方の注意を示す。）

デジタル・アーカイブの内容の構成が、これまでの単純な映像提示と違い、デジタル化された、多様なメタデータをもつ構成となり、しかも、それらが各情報とリンクされます。

これらを、今後、学校・博物館などの教育でどのように考えるのか検討が必要であります。そこから、新しい利用上の指針（ガイド）が出てくるかもしれません。

すなわち、デジタル・アーカイブを勝手に使わせるのか、多少は教育的な配慮をするのが課題です。

これらの、検討もしなくて、安易に何も考えなく、教育利用させることについては疑問があります。これは、私の思い過ぎでしょうか。

～現在は、まだ撮影・測定・記録の新しい方法の検討の時代～

新しいGPSと映像など新しい処理は、まだ、その撮影・測定・記録の方法の検討は新しい手法の構成の時期であります。まだ、とても教育での利用を考える時期ではないし、プレゼンテーション等も、撮影・測定・記録の方法にもなって、検討が始まろうとしている時期であろうと思います。

教員の方は、お医者さんの新しい薬と同様に、新しい素材に対し、内容・方法などいろいろな面から、試行検査をして、その結果を評価し、利用すべき時代になってきたかなと思います。・・・すなわち、教師としての専門性が問われる時代になるのかなと、最近思い始めました。

坂井先生、井上先生、森瀬先生、和田先生、先生方の大変なご協力に感謝いたします。

岐阜女子大学 後藤忠彦